

第 19 回 大学図書館特別展示・学術資料講演会

民藝運動と関西学院 ―雑誌『工藝』を中心として―

2010 年 11 月 11 日に大学図書館ホールで、第 19 回大学図書館学術資料講演会を開催し、神田健次神学部教授に、「民藝運動と関西学院―雑誌『工藝』を中心として―」と題してご講演いただいた。また、それに関連して 2010 年 10 月 29 日から 12 月 3 日まで西宮上ヶ原キャンパス大学図書館において、「民藝運動と関西学院―雑誌『工藝』を中心として―」と題して図書館所蔵の『工藝』の特別展示を行い、あわせて「民藝運動とその展開」と題して図書館エントランスに、関西学院ゆかりの柳宗悦、外村吉之介、寿岳文章の紹介と関連の著書『朝鮮とその芸術』『民藝』『民芸遍歴』『ブレイクとホイットマン』『和紙の旅』などの展示を行った。

「民藝運動」

民藝とは民衆的な工藝、日常生活で使うため職人たちによって創られた実用品を指す言葉です。それまで美の対象として見られることのなかったこれらの実用品に「平常の美」という人間生活に欠くことのできない美を見出し、自然で暖かみのある美しさを紹介する日本独特の運動が「民藝運動」です。1926（大正 15）年、柳宗悦たちによる「日本民藝美術館設立趣意書」の発表が民藝運動の起源とされています。民藝運動は廃れかけていた伝統的な技術を復興しつつ、職人を支援することによって近代に即した「ものづくり」をも推進し、やがて新たな時代を開拓する文化運動へと発展していきました。西欧化・近代化が進展した大正時代末期、柳宗悦は、日本各地の焼き物や染織など、無名の職人たちが創り出した民藝品の発掘と蒐集に努めました。それらは高級品でもなければ西洋の美術品でもありませんでした。また、柳宗悦は民藝運動の拠点として 1936（昭和 11）年、東京・駒場の自邸隣に日本民藝館を開設し初代館長に就任、その趣旨と成果をまとめてこの運動を促進した機関誌が、雑誌『工藝』（日本民藝協会発行）です。



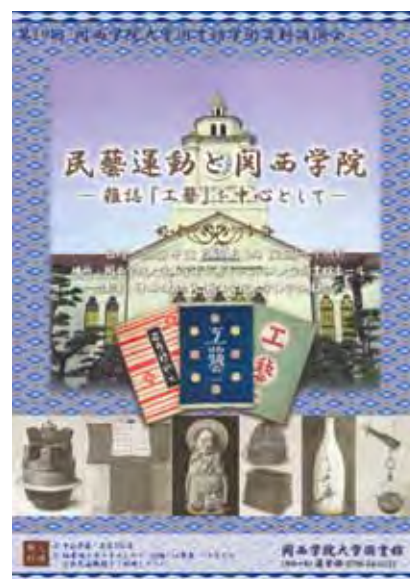
『工藝』第 110 号 挿絵 日本民藝館 正門



『工藝』第 110 号 挿絵 日本民藝館 玄関広間



特別展示：図書館エントランスホール
写真 左：寿岳文章 中：柳宗悦 右：外村吉之介



学術資料講演会チラシ



『工芸』創刊号～第60号



『工芸』第61号～第120号（終刊号）

各地の民藝 —雑誌『工藝』より—



高知県 高知：竹の子笠
『工藝』第 47 号



福岡県 高取窯：徳利
『工藝』第 43 号



長崎県 白石：胡麻煎
『工藝』第 47 号



大分県 小鹿田焼：茶碗
『工藝』第 27 号



熊本県 飯櫃
『工藝』第 47 号



鹿児島県 苗代川窯：山茶加
『工藝』第 41 号



沖縄県 琉球てさあじ
『工藝』第 113 号



韓 国 朝鮮の木工品：鏡
『工藝』第 56 号



韓 国 李朝陶磁：壺
『工藝』第 13 号



兵庫県 丹波布
『工藝』第 6 号



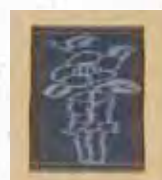
岡山県 倉敷緞通
『工藝』第 32 号



鳥取県 鳥取民藝：掛行燈(鉄製)
『工藝』第 92 号



島根県 八雲村岩坂：楮紙
『工藝』第 28 号



島根県 広瀬絨
『工藝』第 10 号



島根県 布志名窯：饅頭蒸
『工藝』第 18 号



島根県 安来織
上：杣織
下：着尺
『工藝』第 52 号



香川県 丸亀：大団扇元黒
『工藝』第 47 号



山形県 米沢織物
上：かたびら地
下：上布
『工藝』第 91 号



富山県 越中高岡：金櫃
『工藝』第 47 号



滋賀県 大津絵：不動尊
『工藝』第 120 号



栃木県 益子窯：窓絵土瓶
『工藝』第 47 号



埼玉県 武州小川：板締紋紙
『工藝』第 59 号



東京都 八丈島：黄八丈
『工藝』第 97 号



北海道 アイヌ織物：切伏
『工藝』第 106 号



青森県 津軽：こぎん
『工藝』第 14 号



青森県 南部：菱刺
『工藝』第 14 号



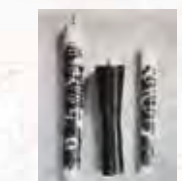
秋田県 樺細工 左：眼鏡入れ
右：印籠
『工藝』第 112 号



岩手県 仙台：仙台筆筒
『工藝』第 47 号



岩手県 陸中漆器：ひあげ
『工藝』第 102 号



福島県 会津若松：絵蠟燭、赤蠟燭
『工藝』第 47 号



新潟県 越後：小千谷縮
『工藝』第 20 号

沖縄